

第1期 国分寺市公民館運営審議会 平成27年度第3回定例会 要点記録

日 時 平成27年9月29日（火）午後2時～4時

場 所 国分寺市立本多公民館 講座室

出席者

委員 門委員・長谷部委員・橋本委員・田中(英)委員・戸澤委員・佐藤委員・大澤委員・北邑委員・田中(雅)委員（欠席2名）

職員 小山社会教育担当部長・山崎公民館課長兼本多公民館長・野中恋々窪公民館長・加藤光公民館長・豊泉もとまち公民館長・木場並木公民館長・秋元本多公民館事業係長

1. 連絡事項

（1）配布資料確認

（2）第2回定例会要点記録確認 10月5日までに修正があれば連絡を依頼
⇒連絡なしのため承認

2. 報告事項

（1）平成27年第3回市議会定例会について

事務局：9月開催の国分寺市議会一般質問について報告。平和学習の取り組みの工夫について、公共施設の使用料有料化の検討状況について、公民館講座の市民ニーズにあった内容の工夫について、保育室の活用について、保育室活動グループの支援について、などの意見をいただいた。決算特別委員会では、平成26年度の収入と支出について細かく質問があり、厳しいご指摘をいただいた。

（2）平成27年第9回国分寺市教育委員会定例会について

事務局：議案として、本多公民館西側の道路の土地について、市の道路用地として使用するため、用地の用途変更と所管替えを提案し、承認いただいた。報告として、公民館運営審議会に諮問を行ったこと、ふるさと文化財課・図書館課・公民館課の3課連携で、夏休みの期間に昆虫の展示を行ったことを報告。

委員：使用料の件はこの公運審で検討する時間はあるか。

事務局：使用料の見直しについては、市内部で検討を行っている。市全体で取りまとめているが、減免等について再度見直しをする必要があるため検討は進んでいない。今後市民説明会を実施すると聞いている。現在施設の申込みに関する予約システムの検討を始めており、先に検討を進めていく。

委員：議会で保育に関する質問があり、現在の事業を維持していきたいと説明があったが、大切な事業なので継続していただきたい。

委員長：実費徴収の検討対象はどの部分か。

事務局：公民館で実施する講座は基本的に無料。ただし、料理や裁縫などの場合は材料費の実費を徴収している。議会の意見は、那須塩原市三島公民館で当市と同様の保育付講座を実施しているが、保護者から保育料として5,000円を徴収して実施している。当市でもそのようにすれば、保育室活動グループへの支援や他の保育付事業が実施できるのではないかという内容。公民館では、保育に関する事業は、子ども学習し、親も学習することを大切にしており、保育についても学習という面から実施していることであり、無料で実施していきたいと考えている。

委員：使用料の件だが、公運審として検討していくことはあるのか。

事務局：公運審では使用料に関する検討の経過を報告していく予定。公運審で審議をして結論をいただく事ではないと考えており、報告しご意見をいただくことになる。

（３）平成 27 年度都公連委員部会及び第 1 回研修会について

委員：第 1 回研修会は、9 月 26 日土曜日に狛江市中央公民館で実施。当市から、公運審 3 名・市民 2 名の参加。テーマは「市民ニーズに応える公民館運営と事業の設定」で、小金井市の職員、町田市と国立市の公運審委員から報告。その後、神代浩氏による講演会があり、図書館運営を中心とした内容であった。意見交換など交流する時間が少ない印象があった。

委員：参加した感想は、どの公民館でも参加者が減少しているということ。講演会でも、図書館は増えているが公民館は減少しているという。社会のニーズが変化しているのではないか。学習をすることで地域のつながりをつくるのか、つながりを求めて学習するのかという問題がある。

（４）その他

事務局：資料 2「夏季自習室」実施報告について説明。各館から公民館まつりについて報告。

委員：並木公民館の子ども祭りは実行委員会方式なのか。仕組みを知りたい。

事務局：図書館・児童館・公民館での共催で実施。児童館は独自に市民に声をかけて実施している。公民館では、六小・十小・五中にチラシを配布し、お店を出さないか呼びかけ、準備会に参加してもらっている。子どもだけで準備することは難しいため、PTAに協力を求めている。

委員：夏季自習室はどのように行われているのか。

事務局：本多公民館では、1 階の一部屋を開放し、その 4 分の 1 を高齢者相談室の涼み処として開放し、4 分の 3 を自習スペースにした。自習スペースでは会話は控えていただくようにし、静かに勉強している。小学生は午後 5 時まで、中学生は午後 6 時まで、高校生は午後 10 時まで利用可能。

委員：夏休みに限定しているのか。

事務局：夏休みの期間のみの実施である。

委員：さいたま市では、一年中自由に利用できる。コミュニティセンターでは、国分寺市の倍ぐらいの広さに、中高生が集まり勉強している。

事務局：他市では、図書館に勉強するスペースがある。当市では、図書館に自習スペースがなく、公民館で対応しているが、要望は多い。

委員：子どもたちのライフスタイルで、自習できるスペースが求められているのではないかと検討している課題かもしれない。

委員：武蔵野プレイスは、3階の自主活動フロアは活動グループ専用になるが、そこ以外はあいていれば使用できる。自習専用の部屋は予約を取るのが難しい。館内にイスとテーブルが多くあり、1人でいても居心地がよいスペースになっている。図書館にある本は建物内どこでも読むことができる。

委員：本多公民館の「青年室」は、利用のされ方が課題となり廃止したが、1階のロビーの一部に自習コーナーを設置している。今後、公民館としてどのような方向性があるのか。

事務局：公民館は、団体での利用が主になっている。自習ができた「青年室」は改装したが、個人利用できるスペースがほしいという要望は多い。また公民館としては、平成26年度から子どもを対象とした事業に取り組み、ジュニアサロンを本多・恋ヶ窪公民館で実施している。子どもの時から公民館を体験してもらいたい。公民館は、学校教育を終えた方のみを対象とするのではなく、0歳から高齢者まで、小・中学生を含め対象として考え、子どもに目を向けた事業に取り組んでいる。

委員長：中学生がパソコン教室を補助する講座もあり、子どもによる公民館利用と若者たちによる自習室利用から何かが生まれるかもしれないということで、重要なテーマになる可能性がある。

3. 協議事項

(1) 諮問について

委員長：これから1年間のうちにどのように審議していくか、委員長と副委員長とでまだ十分に相談できていない。地域づくりは委員1人1人視点が異なると思うが、資料1をもとに、各館の紹介を館長と委員さんで相談していただき、各館10分程度で発表していただきたい。

委員：本多公民館について資料1に基づき発表。地域会議は子どもに関わる団体が集まり始まった。ここから地域協働事業や異世代交流事業が発足。地域づくりは職員の役割は大きい。数多くの団体を結び付けている。

館長：公民館の立地から利用が多いが、反面地域との結びつきが課題となっている。今後、地域とのネットワークづくりに取り組んでいく必要がある。

委員：本多公民館運営サポート会議が本多公民館の事業と一緒に実施していくことになっている。

委員：恋ヶ窪公民館での「恋ヶ窪アカデミー」事業はとても良い事業であると思

う。詳しいことは館長から発表していただきたい。エレベーターも調理室もないが、とても職員と親しくなれる施設だと思っている。近くには児童館がないため、子どもたちが中庭のフリースペースを多く利用している。

館長：資料1に基づき、成人総合講座「恋ヶ窪アカデミー」と子ども対象事業ジュニアサロンについて報告。

委員：「恋ヶ窪アカデミー」では、地域の課題を最初に持ってくると人を集めることが難しいなか、講座内容を工夫していると思う。参考までにどのくらいの参加者があったか。

館長：継続して参加している方が9人登録している。講座が全13回あり、当日のみの参加者（聴講生）が2人程度いる。また、呼び掛けの段階で「地域課題」というと難しいため、「国分寺市のことを知りませんか」という呼びかけ方をした。

委員長：難しかったということは非常に大事な課題提起となる。これから地域課題を検討するうえで、本多の地域会議と対照的な事業の取り組みであり、地域づくりを目指す公民館のあり方の参考となると思う。

館長：資料1に基づき、光公民館事業について説明。防災講座を3年連続で実施。興味がある方ない方の差があり、今年度は保育付で実施する。お父さん応援講座は20代・30代・40代にターゲットを絞った講座。男性のこだわりを検討し、昨年度は「コーヒーを入れよう」をテーマに行い、8人がグループになった。スタジオを活用したライブ光コンサートを年2回実施。立地が市の西側に位置し、昔から住んでいる方と開発で移り住んだ方と入り混じっている。

委員長：公民館活動全てが地域づくりであるという中で特徴的な事業を発表していただきました。

委員：お父さん応援講座の参加者の内訳は。

館長：昨年度4回連続講座で14人参加。30代・40代の方が中心。

委員：環境学習の現在の状況は。

館長：崖線の研究をしている「はけを歩く会」グループは、学校でも活動を行っているが、現在公民館では活動をしていない。ただ、地域還元講座で公民館に協力していただいている。

委員長：防災学習を行うことは必要だとわかっているが、難しい状況で、女性の目線で活動を行っているところもある。訓練だけだと公民館活動とは違ってくるため、結びつけることは難しいと思う。

館長：もとまち公民館の事業について資料1に基づき説明。地域会議に参加する市民の方が高齢化している。高齢者施設のさわやかプラザもとまち、児童館、集会所が近隣に点在し、利用者が分散化している。立地的な問題として、四小・四中の利用者をどのように取り入れるか。

委員：もとまちの地域は、「蛸よもう一度」という自主グループが公民館グループから発展している。また、「里山を守る会」などもあり、地域住民が巣立つ

てグループ活動が続いている。老人会や学校と一緒に講座を作ることができれば地域がさらに発展していくと思う。

委員長：平和の問題・環境・防災の問題を緩やかにつなげていく地域会議があるという説明であった。

委員：並木公民館の事業について資料1に基づき説明。地域づくりはまちづくりで、住みよいというのは知り合いができるということでないかという視点でまとめた。農地が多く、景色が違う。高年齢の家族と、若い世代が転入し、公民館はこれらをつなげることができる施設であると思う。地域にある小学校から高校まで事業に参加している。青少年委員からも参加がある。問題は、グループ活動しているメンバーが高齢化している。新しい会員が増えない。後継者が不足している。魅力ある講座を提供することが重要である。ロビーには夏休み自由に勉強する子どもも多く、何か活用できるのでは。地域のひろば－並木の会では「タイムスリップ地域再発見ウオーク」を実施。

館長：地域のひろば並木の会は、もとまち公民館の地域会議を参考に設置し、世話人をおいている。また、他の3館は1階が図書館で2階が公民館だが、並木は1階が公民館であり、市民に公民館の存在がアピールできる。

委員長：農業が残っている地域でそこを活かした事業が行われている。

委員：「タイムスリップ地域再発見ウオーク」の参加者は。

館長：公民館を会場にした講演会に70人、その話を受けて実際に地域を歩く会は10人くらい。

委員長：各館から資料1を作成していただいた。他の方の感想は。

委員：各館非常に考えられた事業を実施していることがわかった。各館の課題は、若い世代の参加やグループの後継者など共通している。今回、出された中から、市民参加をどう増やしていくのか、展開していければよいと思う。

委員：社会福祉協議会としては、まちづくり、地域づくりを広い意味での福祉として捉えている。公民館での事業にも参加していただき、そこでもつながっていない方とのつながりを、少しでも進めるために貢献するにはどうするべきかを考え、公民館と共に地域づくりを進めていきたい。

委員：中高生の公民館の利用について考えていたが、団体としての利用は難しい。個人の利用、学習室もある。公民館を利用したことがあるという経験が、社会人となって公民館を利用することにつながると思う。

委員：地域づくりを考えたときに、軸をどのようにしていくべきかと考えていたが、地域づくりをコミュニティづくりとすれば、人と人とのつながりが公民館活動を通してつくられていくと考えられる。各館それぞれ成果が報告されている。もう1つの地域づくりは、地域の課題に取り組むことや新しい地域の目玉・価値観をつくること。発表を聞くと現状では難しいと感じている。最後の並木公民館の講演会に70人集まったことは、おそらく人のネットワークで集まったのだろうから、大事だと思う。市民と一緒に集まりながら講座をつくり、市民のネットワークで人が集まる仕組みづくりが大

切だと思う。地域づくりのために課題に取り組むこととコミュニティづくりが循環的に広がる学習の仕組みができると素晴らしいと思う。

委員長：短時間ですが、各館がどのように地域づくりで特徴的な取り組みをしているのか、それはどういう地域の環境にフードバックされた問題意識で取り組まれているのか、その取り組みがどのような課題を残していくのか、説明をいただいた。大きな答申のテーマですので、今後の協議の進め方を副委員長・事務局と話し合ってご提案していきたい。今日の報告は、いずれ答申の中に活かされていく内容にしていきたい。つまり、国分寺市全体の地域づくりを目指すあり方について、歴史やまちづくり施策を含め総括的に論じる部分が必要と思う。それをどう具体化するか、地域の公民館がどう活動していくかについては書いていく必要がある。これから、よくわからないところは聞き取りを行い、あるいは各館の公民館運営サポー都会議の方もお話を伺い、分科会などを開いて作成していきたい。それから3人の現場の方からお話をいただいた。働く父親・社会福祉・子どもの問題は、地域づくりの軸に直結する問題であり、これから活かしていきたい。それでは、これをもって終了する。